資料3―1

中部圏及び北陸圏広域地方計画の策定状況について

○国土形成計画 ・・・1

○中部圏広域地方計画 ・・・4

○北陸圏・中部圏連携プロジェクト ・・・23

○北陸圏広域地方計画 ・・・29

国土形成計画（全国計画）について

H20年7月4日閣議決定

新しい国土像

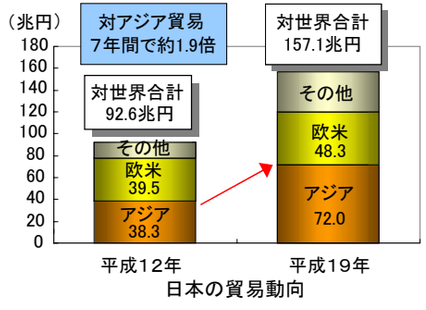
多様な広域ブロックが自立的に発展する国土を構築するとともに、美しく、暮らしやすい国土の形成を図る

新しい国土像実現のための戦略的目標

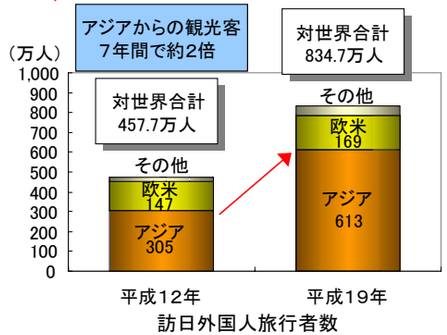
＜グローバル化や人口減少に対応する国土の形成＞

東アジアとの円滑な交流・連携

広域ブロックが東アジアの各地域と直接交流・連携し、アジアの成長のダイナミズムを取り込んでいく



日本の貿易動向



訪日外国人旅行者数

持続可能な地域の形成

人口減少下においても、地域力（地域の総合力）の結集、地域間の交流・連携により、魅力的で質の高い生活環境を維持していく

＜安全で美しい国土の再構築と継承＞

災害に強いしなやかな国土の形成

減災の観点も重視した災害対策や災害に強い国土構造への再構築を進め、安全で安心した生活を保障していく

美しい国土の管理と継承

美しい国土を守り、次世代へと継承するため、国土を形づくる各種資源を適切に管理、回復

国土の国民的経営

多様な活動者の育成

地域全体で取り組む農地・農業用水等の保全・管理（栃木県）

国土管理への参加手法の多様化

間伐材を活用したバッグ（高知県）

＜4つの戦略的目標を推進するための横断的視点＞

「新たな公」を基軸とする地域づくり

多様な主体の参画を、地域の課題の解決やきめ細かなサービスの供給につなげる

従来の私の領域で公共的価値を含む活動

空き店舗を託児所に活用した中心市街地活性化（高知市）

公と私の中間的な領域を新たに担う活動

NPO等による過疎地有償運送（長野県中川村）

従来の公の領域で民間が主体的に担う活動

市民との協働による河川敷の清掃活動（熊本県白川）

広域地方計画について

計画策定のポイント

- 広域ブロックごとに特色ある戦略を描く
- 各ブロックが交流・連携、相乗効果による活力
- 各地域が相互に補い合って共生
- 文化・伝統や個性ある景観など美しい国土の再構築

このためブロックの外に向かっては、とりわけ、

- 東アジア等との交流・連携
- 太平洋のみならず、日本海及び東シナ海の活用

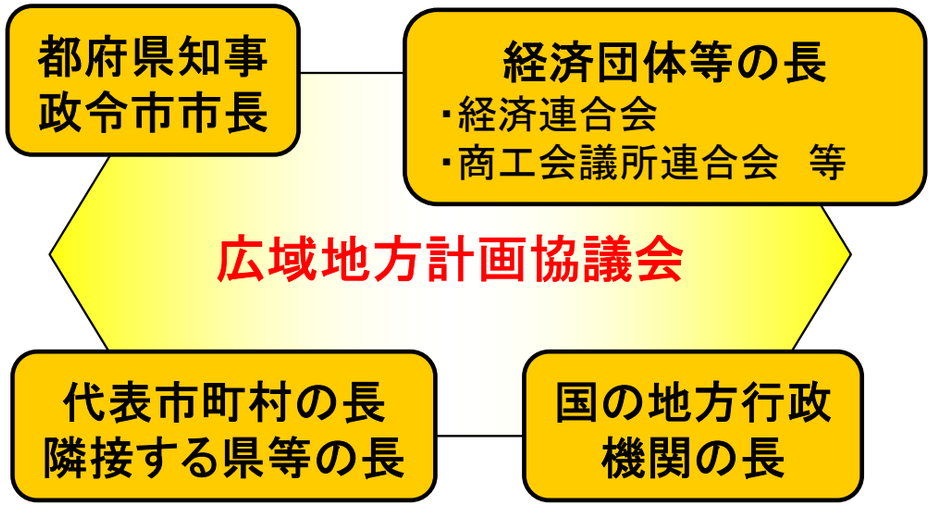
ブロックの内部では、

- 成長エンジンとなる都市・産業の強化
- 各地域が連携、相互補完
- 地域の総合力を結集し、安心して暮らせる生活圏域を形成

100年に一度と言われる世界的な金融危機を契機とした、足下の経済や雇用の厳しい状況等を踏まえつつ、これを乗り越える自立的発展に向けた今後10年の将来展望を描く。

～国と地方の協働～

広域地方計画協議会の協議を経て国土交通大臣決定



協議会の開催状況

東北圏：H20.10.17（会長：東北経済連合会会長）
首都圏：H20.10.24（会長：茨城県知事）
北陸圏：H20.10.2（会長：北陸経済連合会会長）
中部圏：H20.10.3（会長：愛知県知事）
近畿圏：H20.10.21（会長：関西広域機構会長）
中国圏：H20.10.28（会長：広島県知事）
四国圏：H20.10.6（会長：四国経済連合会会長）
九州圏：H20.10.14（会長：九州経済連合会会長）

広域地方計画　スケジュール（想定）

20年 7月	全国計画閣議決定　（７月４日）
10月 11月～ 21年	８ブロック　広域地方計画協議会　開催 市町村との意見交換 東北圏 ： 10.17　首都圏 ： 10.24 北陸圏 ： 10.2　中部圏 ： 10.3 近畿圏 ： 10.21　中国圏 ： 10.28 四国圏 ： 10.6　九州圏 ： 10.14
4月	市町村計画提案 (4/1～4/28)
6月中頃 目途	パブコメ （４週間程度） 広域地方計画協議会 （計画原案の協議）
夏頃	国土交通大臣決定

※　法定手続き

中部圏広域地方計画

中部圏広域地方計画（検討中）の構成概要

区　域：**長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県**の5県　（人口：約1，720万人、域内総生産：約77兆円）

中部圏広域地方計画協議会　（会長：神田真秋　愛知県知事）

（県）
村井　長野県知事
古田　岐阜県知事
石川　静岡県知事
神田　愛知県知事
野呂　三重県知事

（政令市・市長会・町村会）
小嶋　静岡市長
鈴木　浜松市長
河村　名古屋市長
細江　岐阜市長
稲葉　養老町長

（隣接県）
石井　富山県知事
谷本　石川県知事
西川　福井県知事
嘉田　滋賀県知事

（経済団体）
川口　中部経済連合会会長
岡田　東海商工会議所連合会会長
加藤　長野県商工会議所会長
松浦　静岡県商工会議所会長

（国の地方支分部局の長）

キーコンセプト

ものづくりと環境貢献で
日本のロータリーとして
世界のまんなかへ

戦略目標

- 中部圏の資源を活かした国内外の多様な交流の拡大
- 世界のものづくりの中心地としての産業競争力の強化
- 持続可能な環境共生社会を実現する環境先進圏の形成
- 誰もが生き生きとして暮らせる地域社会の実現
- 安全・安心で災害にも強い地域づくり

プロジェクト

1　ものづくり産業の競争力強化PJ
2　次世代産業イノベーションPJ
3　低炭素社会実現PJ
4　いきもの共生PJ
5　国際ゲートウェイ中部PJ
6　まんなか巡り観光交流PJ
7　高次都市機能・連携強化PJ
8　農山漁村の活性化PJ
9　多文化共生先進圏PJ
10　暮らしの安心・快適PJ
11　文化継承・創造PJ
12　克災対策強化PJ
13　三遠南信流域都市圏活力向上PJ
14　伊勢湾再生PJ

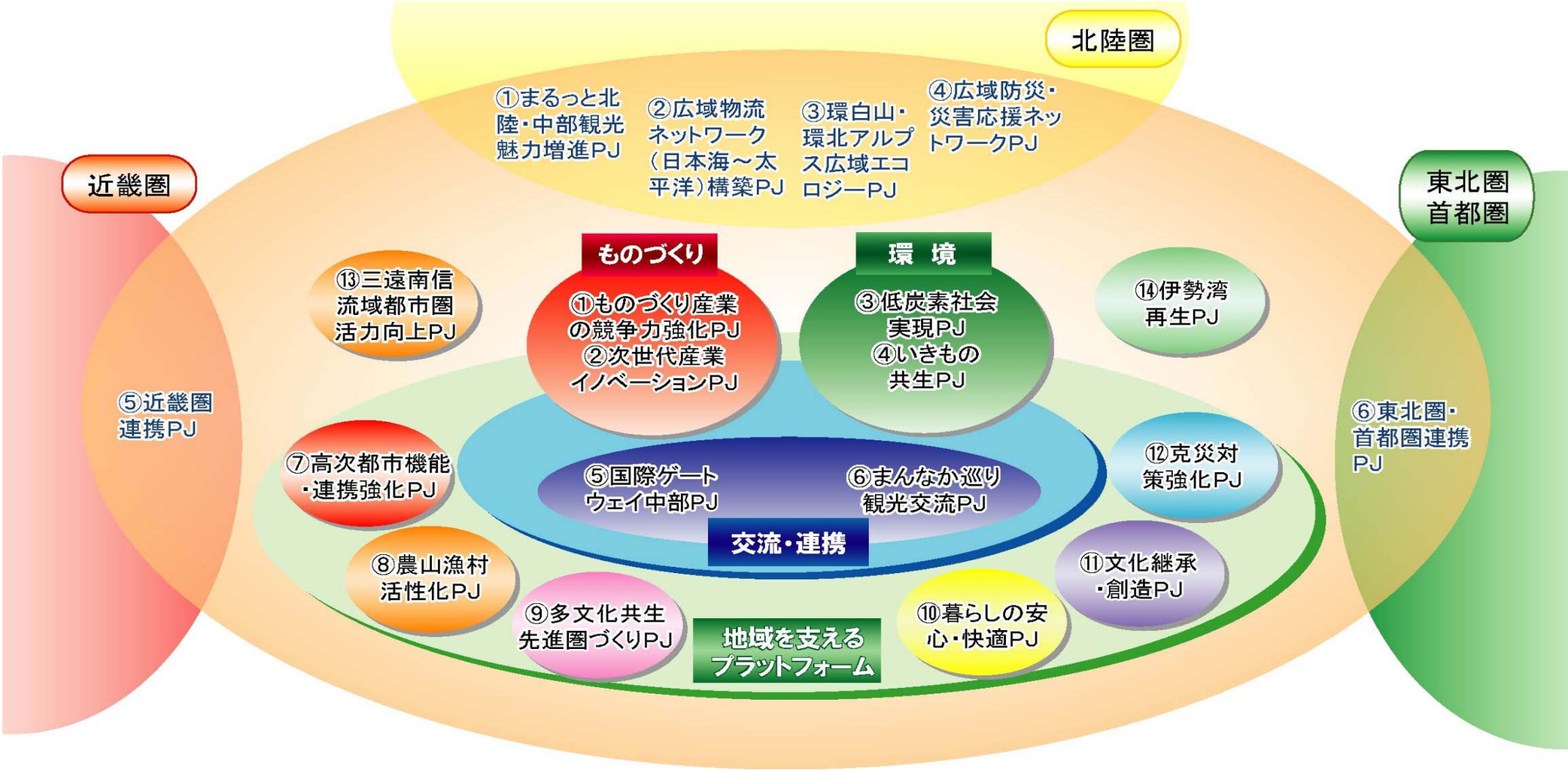
（他圏域との連携プロジェクト）
1　東北・首都圏連携PJ
2　近畿圏連携PJ
3　まるっと北陸・中部観光魅力増進PJ
4　広域物流ネットワーク（日本海～太平洋）構築PJ
5　環白山・環北アルプス広域エコロジーPJ
6　広域防災・災害対応ネットワークPJ

中部圏広域地方計画　プロジェクト体系

『ものづくりと環境貢献で世界のまんなかへ』

～人・モノ・情報などが集い、交わり、融合し、創造・発信していく日本のロータリーとして～

- ものづくり産業の育成・発展を促進、及びものづくりで培った技術を活用した環境改善や新エネルギーなどの環境技術開発を促進、愛・地球博の理念を通じた生物多様性の保全等の先進的取組を進める
- 国内外との交流・連携をさらに強化し、人・モノ・情報を創造・発信する
- 中部圏全体の活力の維持増進や地域住民の暮らし・生活の向上や安全・安心の確保、文化・自然を活かした地域の個性ある発展が必要であり、中部圏全体の地域を支えるプロジェクトとして促進を図る



1. ものづくり産業の競争力強化プロジェクト

目的・コンセプト

〇社会経済のグローバル化のなか、中部圏においても、ものづくり産業の国際競争力の強化が重要な課題となっている。
〇このため、ものづくり人材の育成・確保や既存産業の集積・連携の深化・拡大の推進、利便性の高い物流拠点の提供及び産業用地、交通網、電力・水などの基盤の拡充・強化を図り、ものづくり産業の競争力を強化する。

具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

国際競争力を維持・強化するため、源泉となるものづくり人材の育成・確保

・高度な熟練技能をもつものづくり人材の技術・技能の継承や後継者育成・確保
・ものづくり産業を支える将来の専門人材の育成・確保
・ソフトウェア開発などを担う専門人材の育成・確保

国際競争力を戦略的に強化するため、既存の産業集積・連携の深化・拡大の推進

・海外からの企業誘致、国際的な人材・技術交流の促進
・アジアの国・地域との経済パートナーシップの構築

●グレーター・ナゴヤ・イニシアティブによる海外企業誘致

出典：中部経済産業局資料

産業活動を支える基盤強化のため、空港・港湾周辺などへの利便性の高い物流拠点の提供

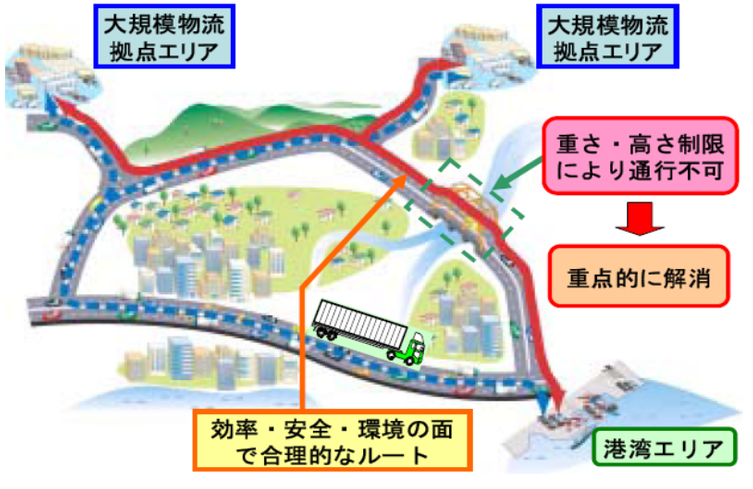
・産業・物流拠点の形成
・空港、港湾の利活用促進

●空港に隣接した産業拠点の形成
出典：中部臨空都市HP

ものづくり産業の活発な生産活動の展開や積極的な投資を喚起するため、産業用地、交通網、電力・水など基盤を拡充・強化

・高い利便性を備えた産業用地の供給
・産業用地の整備
・電力・水の安定供給基盤整備の推進
・高規格幹線道路、地域高規格道路などの整備による物流ネットワークの構築
・シームレスな物流ネットワークの構築
・物流の効率化を推進
・港湾と物流拠点を結ぶ主要ルートにおける国際コンテナ通行支障区間の解消

●国際物流基幹ネットワーク構築イメージ



出典：国土交通省資料

2. 次世代産業イノベーションプロジェクト

目的・コンセプト

○中部圏が産業・技術のイノベーション圏として日本及び世界を先導していくためには、イノベーションを誘発し、その積極的な展開を図るための地域環境づくりが必要である。

○このため、産学官連携体制の強化、核となる先端研究開発拠点機能等の充実、高度人材の確保・育成、裾野産業の強化などを進め、ナノテク・バイオ、航空宇宙産業、環境産業などの育成・集積を促進し、次世代産業の創造を推進する。

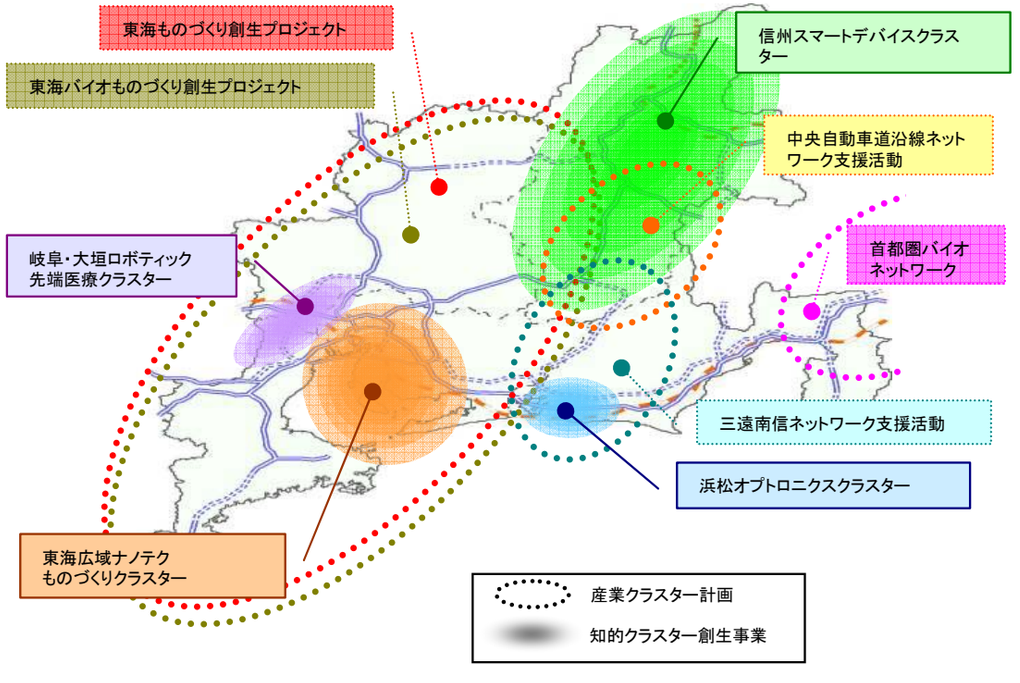
具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

イノベーションを誘発するため、産学官連携体制の強化・ネットワークの形成

・中小・ベンチャー企業と大企業や大学等研究機関とのマッチング支援・強化等による産業クラスターの形成促進
・知的クラスター創成事業の支援

●産業クラスター計画プロジェクト及び知的クラスター創成事業実施地域



中部圏産業のイノベーションを積極的に展開するため、核【コア】となる研究開発中枢拠点の整備

・航空宇宙産業をはじめとした次世代産業の研究施設の誘致・整備
・先端技術研究開発の先導的役割を担うセンター機能の整備
・先端的な研究成果の技術・製品開発への展開を促進するためのセンター機能の整備
・ものづくり産業の産業技術中枢拠点の形成

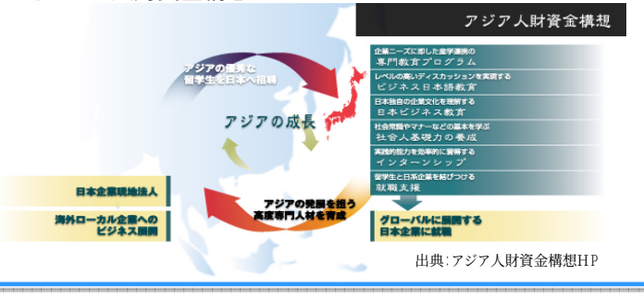
●先導的役割を担うセンター機能

提供：三重県

イノベーションの創発を担う人材確保のため、高度人材の育成・活用を推進

・イノベーションを担う高度人材育成プログラムの開発・展開
・海外から高度人材を受入・活用する産学官連携による体制整備
・イノベーションを担う産学連携による高度人材育成機関の整備

●アジア人財資金構想



出典：アジア人財資金構想HP

イノベーションを支える裾野産業強化のため、中小・ベンチャー企業の活性化

・創造性・新規性あふれる事業の創業者等への総合的支援の展開
・異分野が連携した新商品開発・販路開拓支援
・ものづくり基盤技術の高度化支援

3. 低炭素社会実現プロジェクト

目的・コンセプト

〇中部圏は過度に自動車へ依存しており、その脱却を図るため環境負荷の少ない交通体系の構築などの取組を進める。

〇また、二酸化炭素発生源・吸収源対策を促進し、低炭素型の地域づくりを進めるとともに、ものづくり産業が有する環境技術を生かした、新エネルギー・次世代エネルギーの利活用促進や環境にやさしいライフスタイルへの転換を図るための環境意識の醸成など低炭素社会の先導的なモデルとなる取組を推進する。

具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

自動車への過度な依存から脱却を図るため、環境負荷の少ない交通体系の構築

・温室効果ガス削減に向けた運輸部門の行動計画・指針の策定
・啓発活動の推進
・低公害車、低燃費車の開発支援、導入促進
・パークアンドライドやエコドライブなど官民一体となった広域的な普及促進

●燃料電池自動車

提供：三菱UFJリサーチ＆コンサルティング(株)

●レンタサイクル事業

提供：岐阜市

都市構造の観点から二酸化炭素の発生を抑制するため、低炭素型まちづくりを推進

・集約型都市構造への転換促進
・住宅や建築物の省エネルギー性能の向上
・地域特性に応じた効率的・総合的なエネルギー利活用の促進

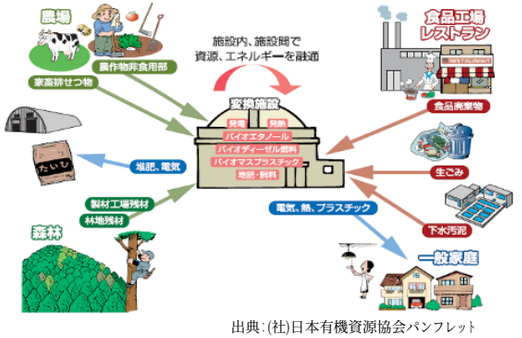
化石燃料への過度な依存から脱却を図るため、新エネルギー・次世代エネルギーの活用を推進

・新エネルギー実用化に向けた産学官による研究開発・技術開発の促進
・自然エネルギーの利用促進

風力発電施設

出典：中部経済産業局HP

●バイオマスタウンイメージ



出典：(社)日本有機資源協会パンフレット

環境にやさしいライフスタイルへの転換を図るため、国民や企業への啓発活動などによる環境意識の醸成

・国民向けの体験型環境学習の推進
・国民のライフスタイル変革や事業者の環境配慮行動に向けた啓発活動の展開
・国民が自動車に過度に依存しないまちづくりの推進

●「企業の森」（企業のCSR活動）

出典：三重県HP

●水辺体験施設（環境学習の拠点）

出典：国営木曽三川公園HP

地球温暖化抑制のため、二酸化炭素吸収源対策を推進

・二酸化炭素の吸収源対策として、山地、里山、都市などの地域特性に応じ、産学官民連携による二酸化炭素吸収源となる森林などの整備

●企業との協働による森林づくり

提供：長野県

提供：静岡県

地球温暖化抑制のため、新たな総合的な取組の推進

・エネルギー・温暖化対策について、関係機関との情報交換・共有及び取組を推進

4. いきもの共生プロジェクト

目的・コンセプト

〇中部圏は、我が国でも有数の豊かな自然を有し、多様な生物が生息・生育する地域である。その豊かな自然を保全し、持続可能な利用を図ることが求められている。
〇このため、地域特性に応じた環境保全対策等を推進するとともに、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の開催を契機として生物多様性を保全するための先導的な取組や活動の支援・推進を行うことで、「人」と「いきもの」が共生する先進的な圏域を形成する。

具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

中部圏が誇る豊かな自然の保全と持続可能な利用のため、森林・里地里山・河川・海など地域特性に応じた自然環境保全対策等の推進

・野生生物の生息環境や生態系の保護・管理による中部圏エコロジカルネットワークの構築
・豊かな自然の保護・保全に資する自然公園の保全・管理
・富士山の環境保全対策の推進
・湖沼における水質保全対策の推進
・水田・水路、溜め池等の水と生態系保全の推進

●環境にやさしいトイレ整備

提供：静岡県

●湖沼の水質検査

提供：長野県

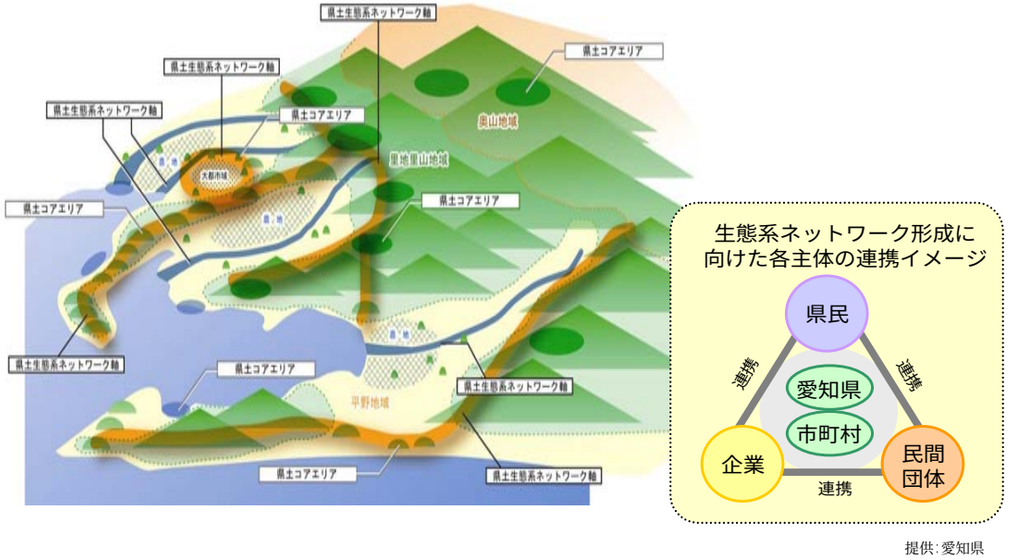
生物多様性の保全を推進するため、「人」と「いきもの」が身近で共生する環境の整備

・里地里山の保全再生事業の推進
・林業・木材産業の再生・活性化による森林の保全・管理
・多様な動植物が生息・生育する河川環境の維持・再生
・身近に自然とふれあうことができる公園の整備推進
・有機農業や環境保全型農業などにより、生物多様性の保全を推進

地域環境や生物多様性の保全を推進するため、多様な主体の参画の促進

・国際的なイベントを契機とした多様な主体の交流・連携の促進による取組の高度化の推進
・産学官民の連携による自然環境の保全・再生
・森林保全を支援する新たな取組の推進
・環境教育・学習の推進、環境意識の醸成

●生態系ネットワーク形成のイメージ　（愛知県での取組例）



提供：愛知県

5. 国際ゲートウェイ中部プロジェクト

目的・コンセプト

○世界をリードするものづくりの拠点であり、国際空港・国際港湾を有する中部圏には、我が国の広域ブロックゲートウェイを形成し、アジア・世界の架け橋となる国際的なハブとしての役割を果たすことが求められている。

○このため、空港・港湾の機能強化及びそれらへのアクセス性の高いネットワークの形成を図り人流・物流を促進する。さらに、国際的な文化・情報の交流を促進し、国際ゲートウェイの形成を推進する。

具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

アジア・世界の人流・物流のハブ機能を担うため、国際交流・物流拠点となる空港・港湾の機能強化

『空』の国際ゲートウェイを担う空港機能の充実・強化

・中部国際空港の完全24時間化に向けた路線の誘致や需要拡大を推進
・中部国際空港における物流効率化を推進
・地域特性にあった地方空港の機能活用

●中部国際空港における物流効率化の推進

提供：中部国際空港株式会社

『海』の国際ゲートウェイを担う港湾機能の拡充・強化

・スーパー中枢港湾プロジェクトの推進、港湾における国際海上コンテナターミナル、多目的国際ターミナルの整備、高質化の推進
・臨海部用地を活用した産業・物流拠点の整備
・中部圏の港湾のポートセールスなどの展開
・港湾手続きのサービス高度化による物流効率化の推進

●AGV（自働搬送台車）等
自動化コンテナターミナル

提供：飛島コンテナ埠頭株式会社

広域ブロックゲートウェイの高いアクセス性を担う骨格形成のため、高速交通ネットワークを形成

・中部国際空港へのアクセス性を向上させる高規格幹線道路や地域高規格道路などの整備
・各地方空港へのアクセス性を向上させる高規格幹線道路や地域高規格道路などの整備
・港湾へのアクセス性を向上させる高規格幹線道路や地域高規格道路などの整備

●道路ネットワーク図

我が国のゲートウェイとして人・モノ・文化・情報が交流する、メッセージ性の高い国際的なイベント・コンベンションの誘致・開催

・活発な国内外の観光・文化・情報交流を促進する国際イベントの誘致・開催
・産業・国際ビジネスの活性化等に寄与するイベント・コンベンションの誘致・開催
・世界各国から人を集めるイベント・コンベンションの誘致・開催

6. まんなか巡り観光交流プロジェクト

目的・コンセプト

○中部圏が観光交流の中枢拠点の役割を担うためには、中部全体のブランド力の強化、広範囲に点在する観光資源の連携による広域ネットワーク化等を推進し、圏域内はもとより隣接圏との観光交流や訪日外国人観光客の来訪を促進する必要がある。

○このため、観光推進組織体制を確立し、中部圏の特色ある地域資源を活かし、観光誘客を推進するとともに滞在型観光を促進する。さらに、交通網を整備し、それを活かして各地域の資源をテーマやストーリーで結ぶことで、リピート性・周遊性の高い広域観光ルートの設定、一体的な観光情報ネットワーク構築による効果的・持続的な情報発信などにより、中部圏の知名度向上と国内外交流の拡大を推進する。

具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

地域の関係者連携による観光資源の磨き上げを推進し、中部圏への観光誘客と滞在の促進を図る

・地域ごとの観光推進組織による観光資源の発掘・創造や宿泊の魅力向上等を推進
・産業観光施設のネットワーク化を推進
・街道・武将・都市観光をはじめとする歴史的・文化的資源を活かした観光魅力の連携強化
・離島間の交流など観光振興に資する湾内・流域連携を促進

●滞在の促進を図るための地域ごとの取組イメージ

四季自然・歴史文化・ものづくり体験など中部圏の持つ魅力をテーマやストーリーで結ぶことにより、リピート性や周遊性の高い広域ネットワークの構築を推進

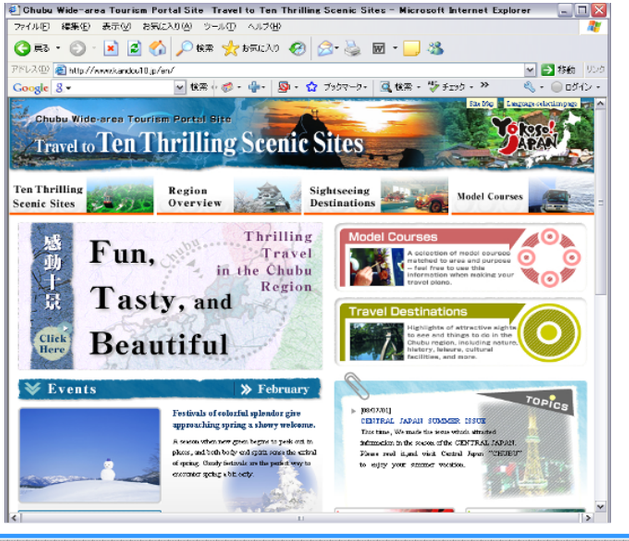
・中部圏の強みを活かした国内外からの観光客のニーズに応じた広域観光ルートの設定を図る
・高規格幹線道路、地域高規格道路、空港、鉄道など観光地間を結ぶネットワークの形成
・観光地への交通集中による渋滞対策等の推進

企画力のある一体的な観光情報ネットワーク体制を確立し、効果的・持続的な情報発信を推進

・観光地における外国語版ホームページや旅行・観光パンフレット等の充実
・企画機能を強化することによる戦略的な広域観光の展開
・中部圏の観光に資する多様な情報について、海外メディアの招請などによる国内外への情報発信やＰＲ活動を推進

●海外へのＰＲ活動の例

●外国語ホームページの例



7. 高次都市機能・連携強化プロジェクト

目的・コンセプト

○中部圏の活力を維持増進するためには、名古屋大都市圏と多極分散型の地域構造を形成する拠点となる中核的都市圏が機能強化と連携を図り、圏域全体の高次都市機能を高めていく必要がある。

○このため、名古屋大都市圏では国際的、中枢的都市機能のさらなる強化を進めるとともに、大都市圏内の中核的な都市圏との連携を強化・促進し、中部圏の発展を牽引する重層的な大都市圏を形成する。また、中核的都市圏の特色ある機能の強化と活力向上、都市圏間の連携強化により機能分担・補完を高め、さらに隣接圏との連携を強化し、日本のロータリーに相応しい圏域を形成する。

具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

中部圏の発展を牽引する名古屋大都市圏の国際的・中枢的都市機能の集積・強化

中部圏を代表する都市として具備すべき活力、賑わい、潤いなどの都市機能の強化

・名古屋大都市圏の玄関口に相応しいビジネスなどの国際・広域交流拠点の整備
・多くの人が集い、交流する商業・文化・娯楽機能が集積した活気あるまちづくりの推進
・国際的・中枢的都市に相応しい、うるおいと活気あふれる都市軸の整備

名古屋大都市圏の玄関口【名古屋駅周辺地区】

提供：中部地方整備局

国内外との交流を強化する交流機能の形成

・「世界のまんなか」にふさわしい国際コンベンション機能の強化

名古屋大都市圏内の都市圏の連携強化

・名古屋大都市圏の骨格となる基幹道路網の整備による都市圏の連携強化

多極分散型地域構造を支える地域の活力向上や特色ある都市圏を形成するため、中核的都市圏の拠点機能強化

地域特性に応じた様々な強みを有する中核的都市圏における都市拠点の機能強化

・都市圏の都市機能の強化・集約化、連携の促進

●市街地再開発整備

提供：静岡市

広域的な交流を促進する交流機能の形成

・都市圏内外の交流を促進するイベント・コンベンションの機能の強化

●都市圏内外交流イベント

提供：静岡市

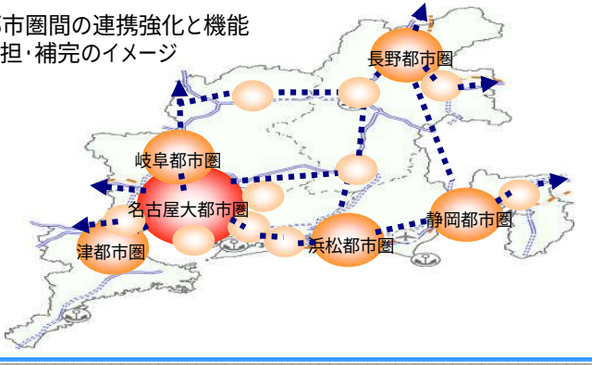
中核的都市圏の形成を支える都市圏交通網の機能強化

・拠点を結ぶ公共交通の再構築も含めた総合的なまちづくりの推進

中部圏の一体感醸成と圏域の更なる発展促進のため、都市圏間の連携強化と機能分担・補完の向上

・都市圏間道路ネットワークの構築
・都市圏間を結ぶ鉄道・バスなどの交通ネットワークの充実
・情報ネットワークの整備

●都市圏間の連携強化と機能分担・補完のイメージ



日本のロータリー形成のため、隣接圏との連携強化に資する基幹ネットワークの構築

・首都圏・近畿圏などの隣接圏を結ぶ広域幹線道路の整備
・中央新幹線について調査を進めるほか、新時代の革新的高速鉄道システムの早期実現を目指す
・地方空港の利活用促進など航空ネットワークの構築
・隣接圏との連携強化に必要となる鉄道ネットワークの充実

8. 農山漁村の活性化プロジェクト

目的・コンセプト

〇中部圏の農山漁村地域では、過疎化や高齢化等の進展により、農林水産業等の産業が低迷し、活力が低下している。
〇このため、農林水産業を支える基盤の整備、産業の維持・発展、さらには新たな展開に向けた取組を推進する。また、農山漁村地域の魅力向上や賑わい創出に向けた取組や安心して日常生活を送ることのできる環境整備を進め、暮らしやすい農山漁村の形成を図る。

具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

地域の基幹産業としての農林水産業の持続的発展のための取組の推進

農林水産業を支える基盤の整備

・基幹的農業用用排水施設の整備を行う農業水利事業などによる農林水産業の生産基盤の整備・保全管理

農林水産業の維持・発展に向けた施策の推進

・耕作放棄地の解消・発生防止による農地利用促進など農地の有効利用
・地産地消の推進による地域経済の維持
・農林水産業の経営などへの意欲と能力がある担い手の育成・確保
・農林水産物の被害を防ぐための野生鳥獣被害対策の推進

●耕作放棄地への導入作物事例（イメージ）

【なたね】

【山菜類】

【放牧】

【マコモダケ】

出典：農林水産省資料

農林水産業の新たな展開に向けた施策の推進

・農林水産業と商業・工業等との連携を強化し、地域経済の活性化の推進
・農林水産物の販路・市場拡大及び輸出の推進

農山漁村のさらなる魅力向上のため、地域資源の発掘・維持・保全・活用

・地域ブランドの創出と展開
・地域資源の保全・管理
・地域の主体性と創意工夫を活かした多様な地域農業戦略の展開

●地域ブランドの創出と展開（イメージ）

提供：長野県

農山漁村の賑わいを創出するため、都市部との交流促進

・農山漁村の活性化に資する新産業の創出
・都市と農山漁村の活発な交流を推進する交通基盤の整備
・農山漁村交流体験の推進
・農山漁村の新たな活力への支援

●都市農村交流（田植え）

提供：長野県

●滞在型市民農園

出典：農林水産省HP

●企業との協働活動

提供：静岡県

農山漁村で安心した日常生活を送るため、生活基盤の確保

・安心して生活し続けることのできる生活基盤の維持・保全・整備
・持続的な地域医療・福祉体制の構築
・地域関係者の連携による公共交通の活性化・再生に向けた取組の推進

9. 多文化共生先進圏づくりプロジェクト

目的・コンセプト

〇中部圏は外国人労働者の占めるウエイトが高い割合となってきており、言葉や生活習慣の違いなどから労働、教育、医療など様々な分野で大きな課題を抱え、その解決は中部圏の持続的発展にとって必要な基礎的条件となっている。

〇このため、就労機会の確保や外国人児童生徒の教育環境の確保、地域コミュニティをはじめとした多様な主体の活動による生活サポートや多文化交流の促進などの環境整備を進めることにより、多文化共生先進圏づくりを先導的に推進する。

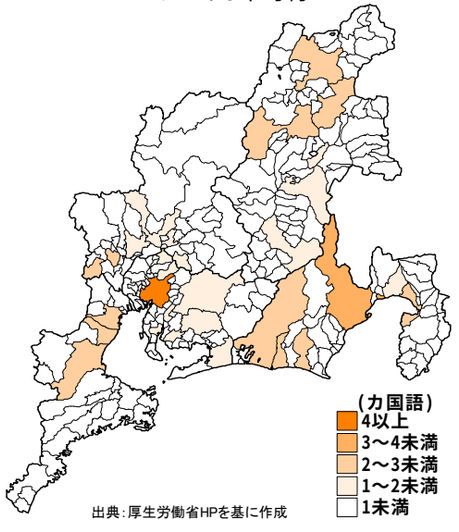
具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

定住外国人の就労機会を確保するため、外国人の就職や雇用の維持・創出支援等を展開

・定住外国人の円滑な就職を支援する相談・支援体制の強化
・定住外国人の技能向上に向けた研修制度の充実
・外国人労働者の雇用環境の整備
・留学生招聘制度の拡充や留学生の就職支援
・雇用環境の急激な変化などでも一定期間の生活を援助する取組の展開

●通訳を配置しているハローワークのある市町村



出典：厚生労働省HPを基に作成

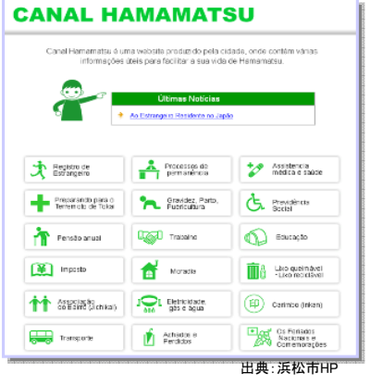
●ハローワークでの外国語表記

出典：名古屋外国人雇用サービスセンターHP

外国人が安心して生活できる環境を形成するため、地域における生活サポート体制等の構築

・多文化共生先進圏づくりに資する組織活動への支援
・地域における多文化共生の意識啓発など先導的役割を担うセンター機能などの整備
・外国人の相談・支援を行う人材の養成・育成
・外国語で対応できる市町村等の相談窓口の情報提供による外国人住民の生活支援
・行政と外国人とをつなぐ日常的なパイプ役の確保

●市役所webサイト（ポルトガル語）



出典：浜松市HP

●外国人支援専門家養成講座

出典：（財）愛知県国際交流協会HP

外国人児童生徒の教育環境を確保するため、就学支援のほか、日本語学習支援や居場所づくりなどを展開

・公立学校への転入学希望者に対する就学支援
・外国人児童生徒に対する日本語学習支援

●就学前適応資料
出典：愛知県HP

日本人住民と外国人住民双方の暮らしやすさを実現するため、地域における多文化交流の促進

・コミュニティ単位での外国人住民と日本人住民との交流イベントの開催支援
・地域社会へ積極的に参画するための体制の構築

10. 暮らしの安心・快適プロジェクト

目的・コンセプト

〇子供から高齢者まで誰もが生き生きとして暮らせる地域社会を実現するため、日常生活を安心・快適に送ることができる環境整備を進める。
〇誰もが利用できる保健・医療・福祉サービスをはじめとした各種生活支援機能の整備・充実、誰もが安心・快適に移動できる利便性、安全性の高い交通体系・基盤を構築する。さらに、万が一の場合でも地域によらず迅速な救急搬送を可能とする体制づくりを推進する。

具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

誰もが安心して日常生活を送ることができる環境を実現するため、各種生活支援機能の整備・充実

地域における保健・医療・福祉サービスの充実

・ICTを活用した在宅医療・診断の普及促進
・保健・医療・福祉の総合的エリアの整備
・医療・健康分野における先端的な研究開発の推進と健康長寿産業の育成

●保健・医療・福祉施設の一体的整備

出典：あいち健康プラザHP

国民の豊かな暮らしを実現する生活環境整備

・日常の憩いの場の整備
・重層的な住宅セーフティネットの整備
・拠点機能を活用した高齢者等が安心して暮らせる地域づくりの推進
・公共施設や道路空間におけるユニバーサルデザインの推進

●公共施設のユニバーサルデザイン化

出典：中部地方整備局資料

誰もが社会参画できる環境の整備・機会の提供

・障害者などの社会参画機会を拡大するイベント開催や各種支援策の展開

安全・安心な水・食料の安定供給・インフラの安全性の確保

・安全・安心な食の供給体制の整備
・渇水対策の推進
・構造物の老朽化・長寿命化対策

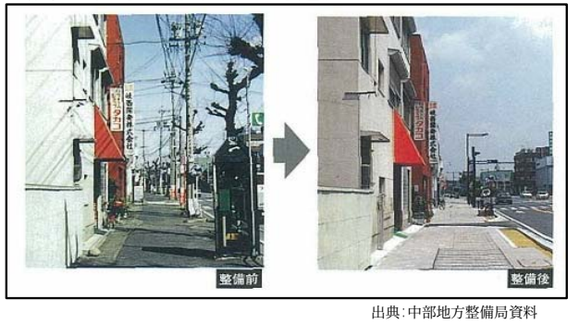
誰もが安心・快適に移動できる環境を実現するため、行政、運輸事業者による利便性・安全性の高い交通体系・基盤を構築

・DMVをはじめとする新たな輸送システムの導入検討
・交通の円滑化に資する道路整備
・公共交通体系の総合的な再構築
・自転車走行環境の充実
・安全・安心な歩行空間の整備
・円滑な救急医療アクセスの充実

●交通安全対策の推進

出典：中部地方整備局資料

●歩行空間のバリアフリー化の推進（無電柱化）



出典：中部地方整備局資料

万が一の場合でも迅速な対応を可能とするため、行政、医療機関が連携した広域的な救急医療体制を整備

・迅速な搬送を可能とする消防と医療機関の情報共有化促進
・県境を越えた広域的救急搬送体制の整備

●ドクターヘリの越県連携

提供：三菱UFJリサーチ＆コンサルティング(株)

11. 文化継承・創造プロジェクト

目的・コンセプト

〇中部圏は、世界に誇る文化やものづくり産業の中枢として培われた産業・ものづくり文化、各地域の歴史風土に根ざした伝統、民俗などの地域文化といった多様な文化を有している。

〇このため、それらの文化を保全・活用するとともに、後世へ継承するための取組を推進する。さらに、各地で胎動する新しい文化の創造・発信などの取組を進め、文化の要素を含めたまちづくり・人づくりを通じた文化の継承・創造を推進する。

具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

世界に誇る文化を後世に継承するため、世界遺産の保護・継承・活用の推進

・世界に誇る文化を継承する世界遺産の保護・活用の推進
・南アルプス世界自然遺産登録に向けた取組の推進
・富士山世界文化遺産登録に向けた取組の推進

出典：白川村HP

出典：三重県HP

出典：南アルプス世界自然遺産登録推進協議会HP

提供：静岡県

ものづくり産業に根付いた文化を継承するため、産業文化・ものづくり文化の展開

・中部圏のものづくり文化を継承・発展させるための交流促進
・魅力あふれるものづくり文化を創造・発信するための交流拠点機能の整備

提供：長野県

提供：中部運輸局

提供：名古屋市

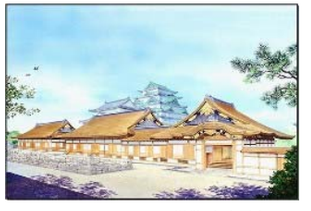
歴史風土に根ざした地域文化を継承するため、有形・無形文化資源の保全・活用を推進

・地域文化を継承するための取組支援
・地域の魅力・価値向上に資するまちづくり、地域おこしの取組の推進
・高い歴史文化価値の復元・継承
・特産品開発や地域ブランド育成支援

●伝統文化の継承

出典：天龍村HP

出典：岐阜県観光データベース


提供：名古屋市

中部圏の魅力を高める文化の創造と発信

・国際芸術祭や国際音楽祭など国際的なイベントの継続開催
・地域の誇る文化を国内外に発信するイベントの開催
・子供の文化芸術体験の拡大
・文化芸術の発信の場となる拠点施設の整備や利活用の推進

●国際的なイベントの継続開催

提供：静岡県

●文化発信の拠点整備

出典：愛知芸術文化センターHP

12. 災害克服プロジェクト

目的・コンセプト

○中部圏のみならず、我が国の持続的な発展のためには、東海・東南海・南海地震、内陸直下型地震、高潮・洪水の発生による被害、地球温暖化による影響等から、太平洋沿岸の国土を保全し、減災の視点も重視した災害対策の推進が不可欠である。

○このため、連鎖的・複合的な被害を最小限に抑える社会資本整備や防災体制づくりを官民で戦略的に進めるとともに、広域的な連携体制を構築し、大規模災害を克服するための対策を強化する。

具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

災害に強い地域づくりを進めるため、戦略的な社会資本整備や防災体制づくりなどを推進

大規模地震などの自然災害による被害を軽減するため、災害に強い社会資本整備を推進

・台風や集中豪雨による洪水被害対策の推進
・流域での対応を含めた水害対策の総合的・計画的推進
・土砂災害・雪害対策の推進
・津波・高潮対策の推進
・社会基盤の耐震化推進
・ゼロメートル地帯での被害拡大防止対策の推進

●耐震補強(落橋防止)

出典:中部地方整備局資料

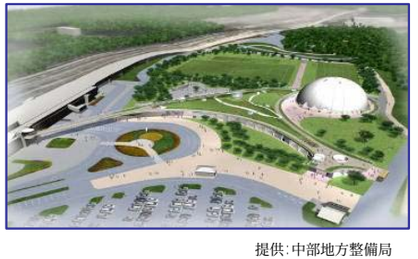
●地すべり対策事業

出典:中部地方整備局HP

災害発生時の救助活動を円滑にするため、広域な避難地・避難路などの社会資本整備を推進

・避難地・避難路の確保
・広域防災拠点の整備
・緊急輸送路や代替輸送路となる道路、航路の整備
・空港、港湾周辺地域等における中核的な広域防災拠点の整備

●災害時に救援部隊の指揮所・宿泊所となる拠点施設

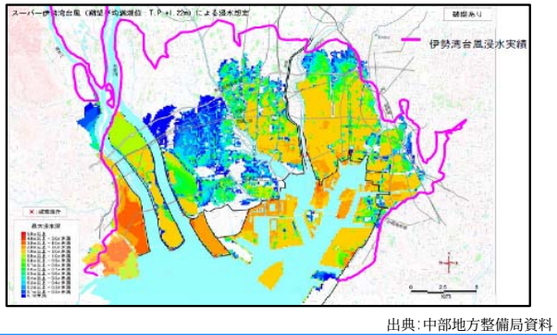


提供:中部地方整備局

自然災害による被害を軽減するため、減災の視点を重視した災害に備える体制づくりを推進

・火山防災対策の推進
・高度防災情報ネットワークの構築
・地域防災力の向上
・行政、民間企業におけるBCPの策定推進

●スーパー伊勢湾台風が来襲した場合に想定される浸水区域



出典:中部地方整備局資料

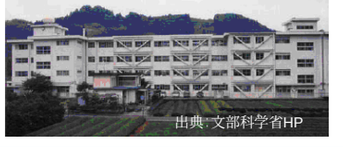
大規模地震発生時の連鎖的・複合的被害を最小限に抑えるため、住宅など建物の耐震化推進

・耐震診断及び耐震補強の促進
・住宅・建築物の耐震化推進

●学校耐震補強工事

■補強前

■補強後



出典:文部科学省HP

災害時の円滑な救助活動を展開するため、広域連携体制などの構築

災害時の二次被害を抑制するため、救助活動を円滑にする広域な連携体制の構築

・広域的な防災・危機管理体制の構築
・中山間地域・沿岸地域での孤立集落対策の推進
・関係機関相互や住民への効果的な防災情報の提供

●防災情報WEBサイト

出典:中部地方整備局HP

13. 三遠南信流域都市圏活力向上プロジェクト

目的・コンセプト

○三遠南信地域は、天竜川・豊川の豊かな自然資源をもとに生活、産業、文化が形成され、高度な産業が集積する地域であるが、中山間地域では人口減少・少子高齢化が著しく、地域文化や地域コミュニティの維持が課題となっており、課題解決と自立的な地域の創造が求められている。

○このため、「三遠南信地域連携ビジョン」の実現に向けた取組を推進し、自立的な流域都市圏を形成及び山地から海岸までの一貫した総合的な土砂管理に取り組む。さらに、三遠南信流域都市圏での取組を天竜川流域圏全体へと波及させることが出来るよう、地域戦略に基づく県境を越えた地域間交流・連携や、地域資源を有効活用した取組の展開を図る。

具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

三遠南信地域連携ビジョンの推進

人・もの・情報の流動を進め、自立的な地域の創造を支える地域基盤を形成

・人とものの流動を促す高規格幹線道路や地域高規格道路などの交通網の整備を推進
・交流や企業連携を促進

●交通ネットワークの構築

出典：飯田国道事務所HP

既存産業の活力増進や新規産業の創造を図り、持続発展的な産業集積を形成

・農商工連携や産学官連携により特徴ある産業クラスターを形成
・大学や研究機関等の連携を促進

●企業立地の整備

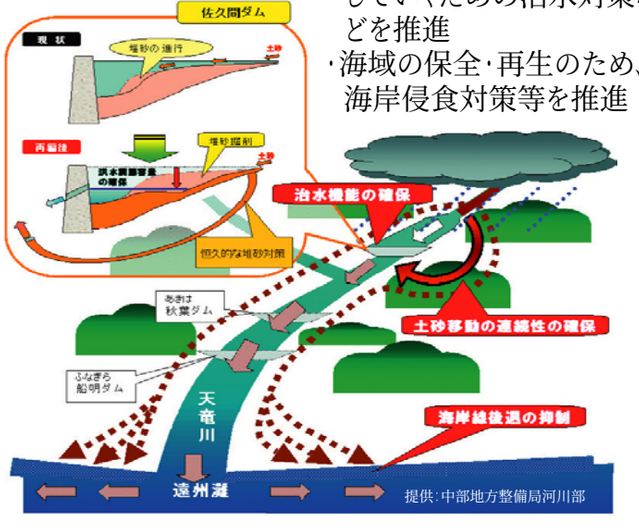
出典：浜松市HP

情報発信やプラットホームづくりを進め、塩の道エコミュージアムを形成

・圏域内外における地域物産販路拡大を推進
・公共交通機関の利便性向上を促進し、観光資源のネットワーク化を推進

自然資源の循環や流域での定住化等の推進を図り、中山間地域を活かす流域モデルを形成

●天竜川ダム再編イメージ



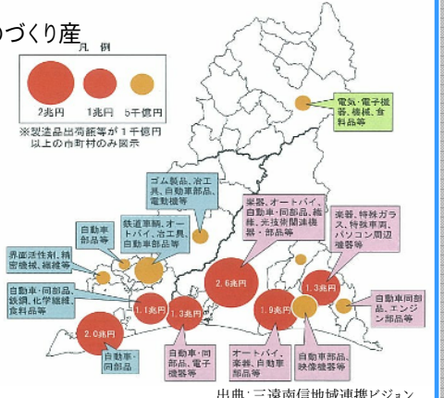
提供：中部地方整備局河川部

・健全な水・物質循環を構築していくための治水対策などを推進
・海域の保全・再生のため、海岸侵食対策等を推進

住民の生活環境の維持と質的向上を推進し、広域連携による安全・安心な地域を形成

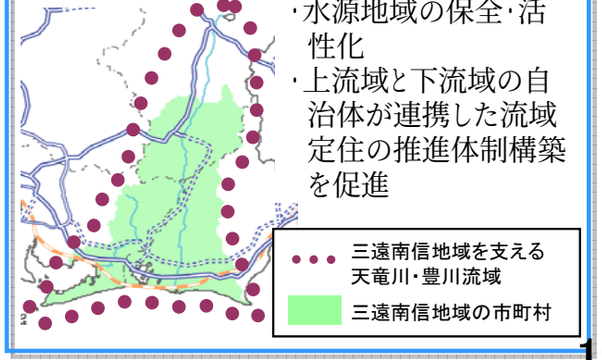
・県境を越えた医療・福祉サービスの連携促進
・県境を越えた防災体制の整備

●特徴あるものづくり産業の集積



出典：三遠南信地域連携ビジョン

ビジョンを後押しするため、天竜川流域の連携した取組を推進



・水源地域の保全・活性化
・上流域と下流域の自治体が連携した流域定住の推進体制構築を促進

14. 伊勢湾再生プロジェクト

目的・コンセプト

〇伊勢湾、三河湾などの閉鎖性水域では水質の改善が進まず、多くの問題が残されるなど、美しく豊かで多様な生物が生息・生育する伊勢湾流域圏を形成し、健全で活力ある伊勢湾を再生することが求められている。

〇このため、“人と森・川・海”といった伊勢湾流域圏が一体となり、多様な主体が連携し取組を継続して推進する。さらに、研究者と連携を図りつつ環境劣化・再生メカニズムの解明を進め、目指す伊勢湾流域圏の姿を実現するための具体の数値目標の設定及び効果的な施策の展開を図る。

具体的取組

※具体的イメージは、プロジェクトの議論に当たり暫定的に記載したものであり、今後のプロジェクトの協議内容にあわせ、必要な修正を行うものである。

伊勢湾流域圏の健全な水・物質循環を構築するため、汚濁負荷の削減、森林、農用地等の保全・整備、水質浄化機能の保全・再生・創出等を推進

・汚濁負荷削減の推進
・水環境に配慮した農業の推進
・水源地域における水質浄化機能の保全・再生・創出

●高度処理施設の建設

出典：名古屋市資料

行政と流域圏の人々・NPO、企業及び大学等研究機関等の多様な主体による協働・連携の促進

・国、自治体、港湾管理者、研究者、NPOなどの連携
・森づくり推進など企業との連携
・中部圏で培われた先進的な水環境技術の産学官の連携による世界への発信

●企業との協働による森づくり

出典：岐阜県資料

多様な生態系と漁業生産の回復を図るため、干潟、浅場、藻場等の保全・再生・創出等を推進

・干潟、浅場、藻場等の再生および保全
・海域の環境改善

●干潟の再生・保全

出典：中部地方整備局資料

生活空間での憩い・安らぎ空間を拡充するため、人々が水辺に親しめる緑地、景観等の形成

・人と海とのふれあいの場および機会の創出
・人々が水辺に親しめる景観の形成
・ゴミのない美しい水辺空間の保全

●川と海のクリーン大作戦

出典：中部地方整備局資料

●伊勢湾再生プロジェクトのイメージ

出典：中部地方整備局資料

1. 東北圏・首都圏との連携プロジェクト

甲信地域（長野県、岐阜県、山梨県）

・圏域を跨ぐ産業クラスターの形成や新技術・新ビジネスの創造等による産業振興を推進し、産業の競争力強化を図る。
・豊かな自然環境や歴史文化施設等の観光資源を活用した広域観光を促進し、国内外からの誘客の拡大を図る。
・希少動植物保護、野生鳥獣被害対策への広域的な取組、緊急輸送路の整備等による安全・安心な地域づくりを進める。

産業の競争力強化を図るため、多様な連携を促進

・産業支援機関等のネットワークの活用による産学官連携の強化

観光資源を活用した広域観光の推進による、観光客の誘客促進

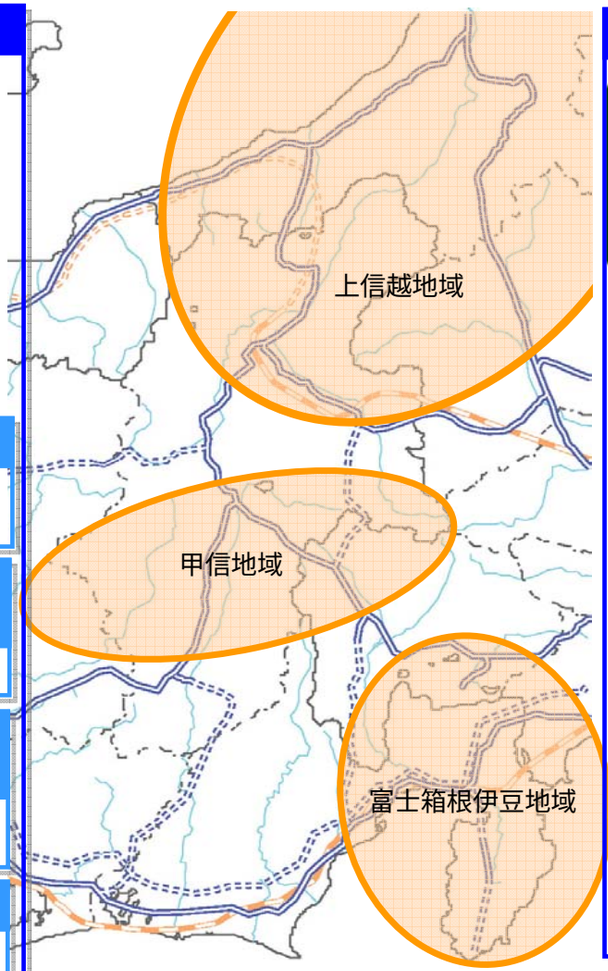
・広域観光ルートの整備による誘客促進

豊かな自然環境を保全するための、連携した取組の推進

・有害鳥獣駆除など、地域内の連携による自然環境の保護

安心・安全な地域づくりのためのリダンダンシーの確保

・代替機能を考慮した交通ネットワークの強化



上信越地域（長野県、新潟県、群馬県）

・豊かな自然環境の保全を進めるとともに、豊富な観光資源を活用し、広域観光を推進する。
・広域的な災害応援体制等の整備や災害時の緊急輸送路等の整備を図る。
・交通ネットワークを有効活用し、環境にも配慮しながら効率的な物流体系の構築を目指す。

地域内の積極的な交流・連携により地域力の向上を図るため、観光資源のネットワーク化、国内外観光客の誘客を促進

・観光推進協議会による広域観光ルートの整備
・各県の観光関係機関との連携による積極的な観光情報の発信
・外国人観光客の受入体制の整備

安心・安全な地域づくりを進めるため、災害応援体制の強化や緊急輸送路等を整備

・国等と連携した火山の観測監視体制の充実
・消防防災ヘリコプターの運航不能時における相互応援体制の整備
・災害時等の緊急輸送を考慮した交通網の整備

交通ネットワークの有効活用をはじめとした、効率的な物流体系の構築

富士箱根伊豆地域（静岡県、山梨県、神奈川県）

・国際的にも有名な観光資源を活かし、外国人観光客の誘客を促進する。
・自然環境の保全、富士山の眺望に配慮した景観の形成を促進するなど、地域の魅力向上を図る。
・大規模災害に対し、地域が一体となり防災力の強化を図り、災害に強い地域づくりを進めていく。

地域資源を活かした、外国人観光客の誘客の促進

・国際的な観光資源における、多言語による積極的な情報発信の推進
・外国人観光客の受入体制の充実

地域の魅力向上のため、豊かな自然環境の保全を推進

・富士箱根伊豆国立公園の保全・管理の推進
・地域内における廃棄物不法投棄防止対策の強化
・富士山周辺地域が一体となった景観形成施策の推進

大規模災害に対する安全性の確保による交流の促進

・火山防災対策の強化
・地震防災対策の強化
・高規格幹線道路など代替機能を考慮した交通ネットワークの強化

2. 近畿圏との連携プロジェクト

京滋奈三地域（京都府、滋賀県、奈良県、三重県の内陸部に跨る地域）

・歴史的価値の高い数多くの文化遺産など、有数の歴史・文化を有しており、歴史街道の中心として、広域交流を推進する。
・文化・観光による集客交流や室の高い環境の保存・創造に向けた取組を推進する。

歴史街道を中心とした、広域交流の推進

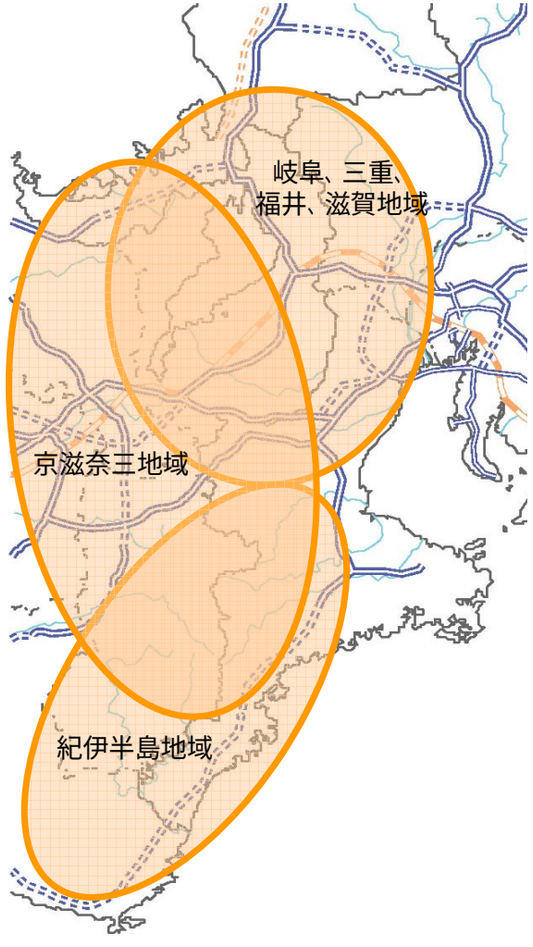
・歴史街道を中心として蓄積した文化を活用した広域交流の推進

文化・観光による集客交流の推進

・文化・観光情報の提供やリゾート・レクリエーション機能等の充実

質の高い環境の保存・創造の推進

・環境と共生しながら豊かに暮らすことができる地域づくりの推進



岐阜、三重、福井、滋賀地域（岐阜県、三重県、福井県、滋賀県）

・多様な文化交流を推進し、地域全体の文化振興を図る。
・四県連携による廃棄物不法投棄対策や環境林づくりなどにより、環境保全に関する取組を進める。
・交流・連携を支える広域交通ネットワークの形成を図る。

地域の文化振興のため、多様な文化事業の推進

・地域の特色を生かした文化交流活動の促進

環境保全に関する取組を推進

・県境における路上検査の共同実施等による廃棄物不法投棄対策の強化

紀伊半島地域（三重県、奈良県、和歌山県）

・魅力的な地域資源の情報発信を積極的に行うとともに、広域交通ネットワークの形成を図り、交流・連携を推進する。
・誰もが安心して暮らすことができるよう医療の連携ネットワーク化を推進するとともに、災害時の相互応援体制の充実を図る。

地域資源を活かした広域観光の推進

・地域が一体となり、観光資源やそれらを繋いだ広域観光モデルコースの情報発信を推進
・高規格幹線道路等広域交通ネットワークの形成を推進

誰もが安心して暮らすことができる環境を実現するため、各種支援機能の整備

・ドクターヘリの三県共同運航による緊急医療体制の確保
・誰もが安定的に適切な医療を受けることができるよう医療機関のネットワーク化を推進
・三県間の協定などによる災害時の相互応援体制の強化

北陸圏・中部圏連携プロジェクト

北陸圏･中部圏連携プロジェクト

1. まるっと北陸・中部観光魅力増進プロジェクト

2. 広域物流ネットワーク（日本海～太平洋）構築プロジェクト

3. 環白山・環北アルプス広域エコロジープロジェクト

4. 広域防災・災害応援ネットワークプロジェクト